



平成28年度 等友旅行会
(長野県松本城)

等友

手をつなぐとも

S
60
・
10
・
1
生

〒111-0041
台東区元浅草
2-10-17
3841-2844
真宗大谷派
勝龍山
等覚寺
住職
朝倉創

平成28年12月
第104号
責任編集
朝倉 翔

一日のたしなみには、

あさつとめにかかきど、たしなめ

一月のたしなみには、ちかきところ、

御開山様の御座候ところへ

まいるべしと、たしなむべし

一年のたしなみには、

御本寺へまいるべしと、たしなむべし

「蓮如上人御一代記聞書」真宗聖典八六四頁より

一日のたしなみとしては、朝の勤行を

おこたらないようにと心がけるべきである。

一ヶ月のたしなみとしては、必ず一度は、親鸞
聖人の御影像が安置されているお寺へ参詣しよ
うと心がけるべきである。

一年のたしなみとしては、必ず一度は、

ご本山（京都 東本願寺）へ参詣しようと心がけ
るべきである

住職から一言

東京でも五十四年ぶりに十一月中に初雪が降りました。最近、日本の四季の移り変わりが失いつつあるのかなと感じます。急に暑くなったり急に寒くなったり・・・みなさんも春らしさ、秋らしさを感じる日が少なくなってきた気がします。

さてさて、前回ご案内しました月一講座「歎異抄を読む会」も後半戦へと入りました。私自身、あらためて皆さんと一緒に歎異抄を読むことで、あらたな発見があったり、親鸞聖人の言葉を頂き直すことが出来、嬉しく思っております。なによりの楽しみは何回かに一度有志の方々と勉強会が終わったあとにお食事に行くことです♪お酒が入ることで、みなさんとの距離が縮まり本音が聞けたりし

ます。等覚寺を通じて新たなお友達を作っていただけたりするのを見て、月一講座を開くことにして本当によかったと感じております。途中からのご参加も随時受け付けておりますので、お気軽にお申し付けください。



お勤めと講座中の様子



お食事会（大関さん撮影）

行事報告

○永代経ならびに春の彼岸法要

平成二十八年三月十九日に永代経・彼岸法要をお勤めいたしました。おかげさまで多くの方とともに、ご先祖さまへいただいたているいのちへの感謝をすることができました。あらためて自身のいのちを見つめ直すきっかけとなるご縁ですので、ぜひ初めての方もお気軽にご参詣ください。

○盂蘭盆会

平成二十八年七月十六日に盂蘭盆会法要をお勤めいたしました。初盆の方と通常のお盆の方の二部制に分けさせていただき、総勢百二十名ほどのご門徒さんがご参拝下さいました。当日の等覚寺住職からの法話をご紹介します。

○浄土真宗のお盆

よく「浄土真宗ではお盆でどういうお飾り、お迎えの仕方をしたらいいですか」とご質問いただきます。それに関して簡単に触れさせていただきます。浄土真宗では、お盆だからといって、迎え火・送り火を焚いたり、盆提灯を出したり、なすやきゅうりで作った精霊棚をお飾りする必要は一切ございません。こういった習慣というのは、もともと仏教をおこりとするものではなく、日本の古来からの霊信仰から始まったものなのです。先祖が霊となる、霊となって四日間だけ戻ってくるといふ、仏教とは関係ない考えから始まった習慣でして、浄土真宗ではいつもと同じように、御仏飯を供えて朝晩にお念仏を唱えるということを行っていただければと思います。



○浄土往生

さて今日お話ししたいのは、浄土に往生する、浄土往生ということです。実はこれを話そうと思ったのは先日、事件がきっかけです。フランスのニースで、トラックが観光客に突っ込んで八十数名の方が命を落としたということがありました。最近テロがすごく多いので、この自爆テロというものを調べてみました。この時の犯人は三十一歳、弟よりも若いぐらいです。そんな若者が自爆テロをする。若者なので、少なくとも未来があってこれからいろいろ楽しいことがある、それなのに自分の命を落としてまでもテロを起こすという、なぜそんな考えに至るのでしょうか。

テロを起こす若い人たちは、貧しい人が多いと言われています。貧しい家庭環境で育って、なかなか明るく未来が持てない、そして半ば自暴自棄になる。そんな時、イスラムの原理主義という教えに出会う。イスラム原理

主義では、自分たちに対して敵対するものは全て敵であり、ジハード（聖なる戦争）をしたものには死後パラダイスへ行けると言われています。そのパラダイスは例えば若い男性にとってみると、うら若くきれいな女性がいっぱいいるような所だとか、そういうことを説かれるわけです。するとどうせ生きていてもこの先暗いし、死後が楽しくなるのだったら、ということでは自爆テロを起こすようだとされています。死後がパラダイスだという点で、少し引っ掛かりました。

浄土真宗の教えでも、この世（娑婆の世界）で命の縁が尽きたら、阿弥陀如来によってお浄土へ救われていきます。浄土というのは、英語に訳すとピュアランドと言います。純粹なる世界。浄土に往生できるというのが真宗の教えですね。ですから何かイスラムの死後のパラダイスと近いものがあるのではないかと思う、それについてお話ししたいと思います。

たのです。そもそも自爆テロというの、遠い海の向こうの話なのか、ということもあるわけです。この事件はフランス人が起こしました。移民をルーツに持つフランス人の男子。日本でも二十年ぐらい前に、オウム真理教が起こした地下鉄サリン事件がありました。あれもテロですよ。オウム真理教に入ったのも高学歴の若者が多かった。実行犯も当時三十代前後の若者が多かったということです。そしてもっと遡ると、自爆というところで共通するのは、戦争中に神風特攻隊というのがありましたね。あんまりこれを簡単に話してしまうと、戦争をご経験の方々に怒られてしまいますが、行きの分の燃料しか持たないで飛行機で突っ込んでいく。これもある種、自爆覚悟で突っ込んでいくということ、決して、遠い海の向こうの話ではないと思うんです。そういう私たち人間には、ご縁次第によつて、状況次第によつては、そういうこと

も起こし得るんじゃないか、という事でまず共通点があります。

○本当に往生したい？

次に浄土往生についての話です。今日いらっしゃった中に、本当に心から仏になりたいんだ、浄土に往生したいからここに来たんだという方、いらっしゃいますか？これは僕自身が、以前ある有名な先生に聞かれたことなのです。「今日君は、本当に仏になりたいと願ってきたのか」と。「浄土往生したいから話を聞きにきたのか」と。聞かれてドキッとしました。生活の中で浄土往生など考えてもいなかった自分に気付かされたからです。今の世の中、本当に浄土に往生したいと願って「ナマンドブ、ナマンドブ」と称えるのはなかなか難しいですね。それが正直なところだと思います。

では、親鸞の時代はどうだったのでしょうか

か。歎異抄に見てみたいと思います。そもそも歎異抄というのは、親鸞聖人とその弟子である唯円という方の会話を記したもので、親鸞亡き後にどうも親鸞聖人が言ってたことと違うことを言っている人が多く、自分はこういうことを親鸞聖人から聞いてたんだという歎（なげ）きをまとめたものです。異なりを歎くと書いて歎異抄です。この第九条には、唯円が最初に親鸞上人にこう聞きます。「お念仏をしておりますも、踊り上がって喜ぶような心がありませんし、また少しでも早く浄土に往生したいという心が起こってこないのは一体どういうことでしょうか？」どうですか？これ今私が皆さんに聞いた質問と一緒にだと思えます。念仏して浄土に往生できるよと聞かされて、念仏はしてるんだけど、なかなか往生できる喜びが湧いてこないんだと。多分相当勇気を持って聞いたと思います。なぜなら、師匠である親鸞に対して、あなた

の言うとおりにしてるけれど、どうも喜べないって言ってるようなものですからね。

これに対して親鸞聖人は「唯円あなたもそうであつたか、私もそうだよ」と返事をしたのです。これに唯円はびっくりしたことでしよう。さらに続けて、「あなたも同じ思いを抱えていたのですね。念仏をすること、踊り上がるほどに喜んでいいはずなのに喜べないのは、ますます間違はなく私が浄土に往生させていただけのしるしだと思う」と。喜べないからこそ、浄土往生が確定しているんだということが分かりました、とおっしゃった。これはすごく逆説的で、一度聞いただけでは、何言ってるんだろうこの人は、と言いたくなるような言い方ですよ。そしてその理由が、「往生を喜ぼうとする心を抑えているのは煩惱のせいだ」と。私たちの煩惱は、生（命）に執着するわけです。今のこの娑婆の世界で生きたいと。だからこそ人間は死が

怖いし、死にたくないと思うのです。つまり煩惱が、浄土往生を喜ばせないようにしてるというわけです。

それで、本堂の真ん中にいらっしゃる私たちのご本尊の阿弥陀如来。阿弥陀如来がどなたを救いたいと願われたかというと、煩惱を抱えている人間たちよ、私が救いたいのはあなたたちだよ、と呼びかけているわけです。

だから浄土往生を喜べない私こそ、阿弥陀如来が救ってくださるお目当てなんだということに気付けたから私は嬉しいんだ、と親鸞聖人はおっしゃったわけですね。この会話から親鸞聖人のお心をわかっていただけたかと思えます。



堂の本堂の
像絵人聖鸞親

○浄土真宗での救い

私たちも日頃「ナマンドブ、ナマンドブ」と念仏こそすれど、ある種口癖みたいになっ
てしまっているような気がします。その南無
阿弥陀仏によって救われるということをお教わ
るんですが、私は職業柄というか、「ナマン
ダブ、ナマンドブ」というのが自然と口から
出ているだけのような気がすることも多いん
です。ですが、それでいいんだと、そういう
人間だからこそ阿弥陀さんは救ってくださる
んだというのが親鸞の教えだったわけです。

ここに、私たちがそのまま救われてゆく
道があると思うんですね。他の宗派のお坊さ
んのように、滝に打たれたりとか、お経を
何遍も読んだりとか、断食をしてみたりとか、
そういうことをしなければ救われないわけでは
ないんだということですね。そういうことを
して救われる道も確かにあるけれども、そ
ういうことをしたくてもできない、時間もな

い、そういう私たちだからこそ阿弥陀さんは救おうとされている、だからこそ、そのまま生きていきなさいというのが、みんなで平等に救われていくという浄土真宗の一番大事なところなのです。

それでは私たちが、喜ぶ瞬間というのはどういう時でしょうか。例えば、宝くじが当たったりですとか、息子さんが会社内で昇進したとか、お孫さんが受験に受かったとか、そういう時にやっぱりうれしいですね。逆にそうじゃなかった時、逆のことが起こった時は悲しいですね。自分に不幸があったりした時に、何でこんなことが起こるんだろうと気分が落ちる。そういうことで、私たちは常に日頃喜んだり悲しんだりしている。

例えば、宝くじが当たったとして、十億円当たったその翌日に事故に遭って死んでしまったら意味ないですよ。それと同じようにどんなに高い地位とか社会的名誉とか、財

産とかそういったものは、死というものを目の前にしたら全く意味のないものなのです。そこに私たちは早く気付いてほしいと、ご先祖や仏さまから願われているのではないかと思います。ですが、日頃の私たちはそういうことに一喜一憂していく。そのことが大事なことのような勘違いをしてしまっている。ですが、私たちの命はいつか必ず死がくる。よく笑い話でこう言います。「お金貯めても、お浄土へは持っていけないよ」と。それと同じく、大切にすべきものは違うのではないかと、仏さまが私たちに気付け気付け、とたびたびお浄土から願われているのではないかと思うわけです。

ですからお盆というものを機縁に、ご先祖さまが帰ってくるとか、四日間しか帰ってこないようなご先祖さまじゃないと思うんです。それじゃ寂しいと思うのです。むしろ一年中、年がら年中私たちが合掌すれば、常に近くに

仏さまとなった近しい方の存在を感じる事ができる。このことが本堂に大事なことであって、形にとらわれて、この四日間、迎え火焚いて、確かにそれは日本の古来からの美しい習慣でいいのです、それをやるなどは言いませんけれども、それだけ終えて、ああよかったね、と。これではだめなんだということに気付かなければいけないと思うのです。本当に大事なのは私たちが目覚めていくこと。私たちが命に目覚めることが本当に大事なんだということ。そのためにはこうやってまた皆さまと一緒に教えを聞き続けるということですよ。

私もそうですけど、本堂を一步出れば、お話の内容は七割ぐらいになって、お寺を出る頃には五割ぐらいになって、近くの駅着いたら三割ぐらい、そしておうちに着いたら、今日住職何の話したっけなど。そうなるのが人間なんです。それはそれでいいんです。こ

の場だけで、ああそうだなあと思えたことがあれば、頷けたらそれでいいんです。おうちに持って帰ろうとか、皆さんに話そうとか、そこまで考えなくていいわけですね。皆さんがそうだなと一瞬でも頷ければ、それはもう仏さまが喜んでいただけることだと思います。

（法話 住職釋創龍）



○等友旅行会

平成二十八年六月二十六日から一泊二日で等友旅行会を開催しました。梅雨中だというのに両日ともに天気は快晴、天候にも恵まれて参加者十八名全員元気に楽しむことができました。今回巡ったのは、山梨と長野で、中

一日目



さあ出発！
さっそく乾杯♪



信玄餅の桔梗屋さん
信玄餅ソフトクリーム

でも大河ドラマ「真田丸」フイバーに湧く
上州上田の大河ドラマ館が目的地です。宿泊
先のホテルにお仕事のご縁があるということ
で、ご門徒の杉山起良さんが夕食にいいい
お酒の差し入れをして下さり、おかげ様でい
つも以上に楽しい宴席となりました。この場
を借りて御礼申し上げます。ありがとうございます
しました。ここからは写真を交えてご紹介さ
せていただきます。



長野に移動して
諏訪大社へ



お昼ごはんは
山梨名物ほうとう



御柱（おんばしら）

楽しい宴会！
お酒の差し入れいただきました♪



今話題の真田丸



国宝の松本城



帰りのバスもまだまだ元気！
ゲーム大会



信州味噌のお店で
お買いもの



おつかれさま～
また次回もお願いします！



お昼はきのこ鍋に下鼓♪



天守閣へ

○初参式（初参り）

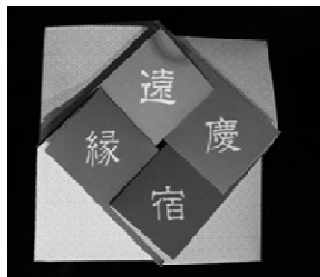
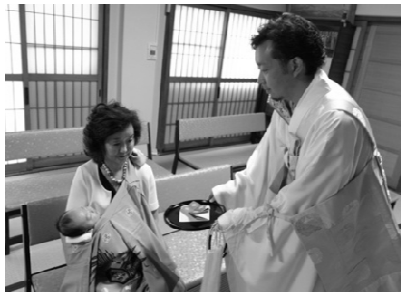
子どもが生まれた後は、子どもの成長を祈るいろいろな行事があります。中でもお宮参りは多くのみなさんがやられることではないでしょうか。子どもが生まれて一ヶ月を目安に神社に参拝するというものです。これ、実はお寺でもできることをご存知でしたか？今回はこの初参式をご紹介しますいただきます。そもそも神社のお宮参りというのはどのような意味でやられているのでしょうか。日本では古くからさまざまな神様がいると信じられており、その中でも普段から私たちを守ってくれる土地神さまに挨拶をするという意味と、お産には出血が伴うため、お産自体がけがれであるという考え方があり、そのけがれを祓うという意味もあるそうです。

では、お寺ではどうなのでしょう。あまり知られてはいませんが、お寺でも初参式という呼び方で初参りの行事が昔からあるので

す。その意味としては、もちろんけがれという考え方自体存在しませんので、お宮参りとは違います。かけがえのない新たないのちの誕生を、慈悲の心で私たちを見守ってください。阿弥陀如来やご先祖さまにご報告すること、周囲の人々を敬い、自他共にいのちを大切に生きて生きる本当の優しさが身につくように説かれている仏教の教えをあらためて家族で確かめ合い、赤ちゃんにその成長を願う場があります。



具体的な式の流れとしては、ご家族みなさんでお集まりいただき、ご本堂へ。そこでご本尊やご先祖さまへご奉告（報告）と感謝の参拝。読経。参拝後にお子様誕生児念珠を授与いたします。だいたい二十分くらいの式です。



←誕生児念珠が中に入っています



みなさまもご先祖さまへのご報告も兼ねてお寺での初参式も受式されてみてはいかがでしょうか。等覚寺では初参式をいつでも受け付けております。ご希望される方はぜひお気軽にお寺までご連絡ください。

備忘録 法事の準備

○まずはお寺へ日程連絡

回忌の確認をし、ご家族で法要希望日をお決めになりお早目にお寺へご連絡ください

○当日必要なもの

- ・お布施
- ・お花代（本堂にお飾りする
お花代で、一万円の実費）

○ご希望によってお持ちください

- ・お供物
- ・過去帳やお位牌
- ・遺影（小さいもの）

○服装は平服でも結構です。

（ご参加される方同士でお話しされてお決めください）

※お寺へお包みいただく表書きは全て「布施」と書いていただければ結構です。浄土真宗の場合は「読経料」

「霊前」という言葉は用いません。

備忘録 お焼香作法

○お焼香のタイミング

お勤め中に声が掛かりますので、それまでお待ちください。順番には決まりはないので、施主の方から前に出てご焼香ください

○お焼香作法

・焼香机の前に進み、合掌せずにご本尊を仰ぎ見ます。赤い香盒（香入れ）の蓋を開けて香盒の右に置きます。

・右手でお香を二回、香炉にくべます。（お香を額に頂くことはしません）お香の乱れを指先で直してから「南無阿弥陀仏」を称えて合掌礼拝をします。

・自分の後にお焼香する方がいれば蓋はそのままだにし、最後であれば蓋を閉めて自席に戻ります。

備忘録　　くお葬式についてく

○事前のご相談もお気軽に

亡くなられた後ではバタバタとしてゆっくり検討する時間がありません。お寺にご連絡いただければ葬儀までの流れなどご不明、ご不安な点のご説明もさせていただきます。

○葬儀の場所

基本的にどちらでも伺わせていただきます。遠方でも泊まりがけでお勤めさせていただいておりますので気にせずにご依頼ください。また、可能な方は**ぜひお寺でご葬儀を**。故人が生前ご縁のあつた等覚寺の本堂で、あたたかくおごそかなご葬儀をすることができます。

○葬儀の布施

この時お預かりする布施は通夜葬儀のお勤めの対価ではありません。亡くなった時をご縁にお寺の護持のためお納めいただくものです。どうぞお気軽にご相談ください。

ご披露

等友へのご懇志

加藤伊知郎様 浅井京子様 小林道子様
鈴木きみ子様 山本一正様 高橋健治様

(順不同)

いつもご支援いただきまして、誠にありがとうございます。この等友誌や等友会は、こうしたご支援から成り立っております。これからぜひ「等友へ」と、ご協力いただけますと幸いです。また、他にも多数の方から等友へのご支援をいただいております。(申し訳ございませんが、お名前には漏れがあるかと存じます。おっしゃっていただければ次号以降に順次ご紹介させていただきます)

本山東本願寺へ宗門護持金完納

等覚寺は真宗大谷派に属する末寺です。毎年ご本山の宗門護持のために護持金を納めておりますが、今年もみなさまのご協力のおかげで無事に完納することができました。この場を借りて御礼申し上げます。また併せて、これからもみなさまからの変わらぬサポートをお願い申し上げます。

境内の整備

等覚寺の玄関先にはいつもきれいなお花が咲いていますが、あれは実は宮原勉さんご夫妻が定期的にお手入れして下さっているのです。いつもありがとうございます！



編集後記



こんにちは！釋翔雲です。突然ですが、この場を借りてご報告です。私事ですが、平成二十八年六月六日に第一子である男の子が産まれました。名前は悠人（ゆうと）といいます。今回の等友では初参式を取り上げましたが、実はあの記事の写真が悠人なんです。ちょっと照れくさいので記事の中では触れませんでした（笑）

おかげさまで今は六カ月を過ぎ、順調にすくすくと育っております。（ぶくぶくして育ちすぎかもしれませんが・・・）

これから行事などにたびたび出席させたいと思っておりますので、どうかかわいがってあげてください。よろしく願います！

平成二十九年行事予定

一月二十二日(日) 新年会法要

三月十七日～二十三日 春季彼岸

三月二十日(月) 春季彼岸会・永代経法要

七月十三日～十六日 お盆

七月一六日(日) 盂蘭盆会法要

九月二十日～二十六日 秋季彼岸

十月二十二日(日) 報恩講

◎みなさまお誘い合わせの上、

お気軽にご参加ください。

平成二十九年年回表

一周忌	平成二十八年
三回忌	平成二十七年
七回忌	平成二十三年
十三回忌	平成十七年
十七回忌	平成十三年
二十三回忌	平成七年
二十七回忌	平成三年
三十三回忌	昭和六十年
三十七回忌	昭和五十六年
四十三回忌	昭和五十年
四十七回忌	昭和四十六年
五十回忌	昭和四十三年
七十回忌	昭和二十三年
百回忌	大正七年